

## 「地域づくり事業」経営計画

【さつきグループ】 木場 精子 小島 恵里 井龍 慶子 近藤 紀美代 成川 多喜子 三好 清美

### 「コミュニティワーク・シェアリング」の事業の構想

私たち五月グループでは、初めからテーマを設定することをせず、メンバーそれぞれが普段の生活の中で思うことを自由に出し合った。その結果、根底にある考え方や価値観そのものをメンバー全員で問い直し、そこから課題を見つけることで一致した。すなわち「地域づくりの固定観念をみなおす」こと自体をテーマに、協議がスタートした。

その過程で、従来当たり前と思われてきた社会のあり方が変化しているが、地域の組織は従来のままであることに気がついた。現代に合った、より魅力的な地域であるために、地域のあり方そのものを模索し、解決の方向性を地域の新しいつながりを創出するしくみづくりに見いだした。

#### 現状として把握されたこと・・・

- ① 住民ニーズと地域コミュニティ活動のずれ  
従来の家族形態が変化し、家族に期待されていた相互扶助機能も失われつつある。それを補完するサービスが必要であるが、行政にそれを求めることは難しい。
- ② 高齢化による高齢者像の変化  
高齢者年代や健康状態、生活スタイルなど多様な高齢者が増加し、従来の高齢者像とは実態が異なってきている。介護サービスを受給する高齢者がいるのと同じに提供する高齢者もあり、高齢者自身もひとくりにされることに違和感がある。従来の高齢者施策やサービスは画一的である。
- ③ 少子化による地域的つながりの変化  
少子化による小学校の再編成に伴い、子どもをとおしてつながっていた地域のつながりが弱まった。
- ④ 高齢者・女性就職率の増加、子どもの生活の変化  
高齢者や女性の就業者が増え、子どもは学習や部活動で忙しく、公共的役割をになうことが時間的に難しい。
- ⑤ 固定的性別役割分担意識による慣行  
固定的性別役割分担意識による慣行があり、その結果地域コミュニティ活動に人材が生かされていらない。

#### 重点課題として抽出されたこと

##### 固定観念をみなおし、地域の新たなつながりや新しい担い手を創出するしくみづくり

多様な住民ニーズを行政に求めるにも限界があり、地域にその役割が期待されているが、従来の地域組織や活動では対応できず、その担い手も不足している中、地域コミュニティ活動には公共的役割の担い手としての方策が求められている。

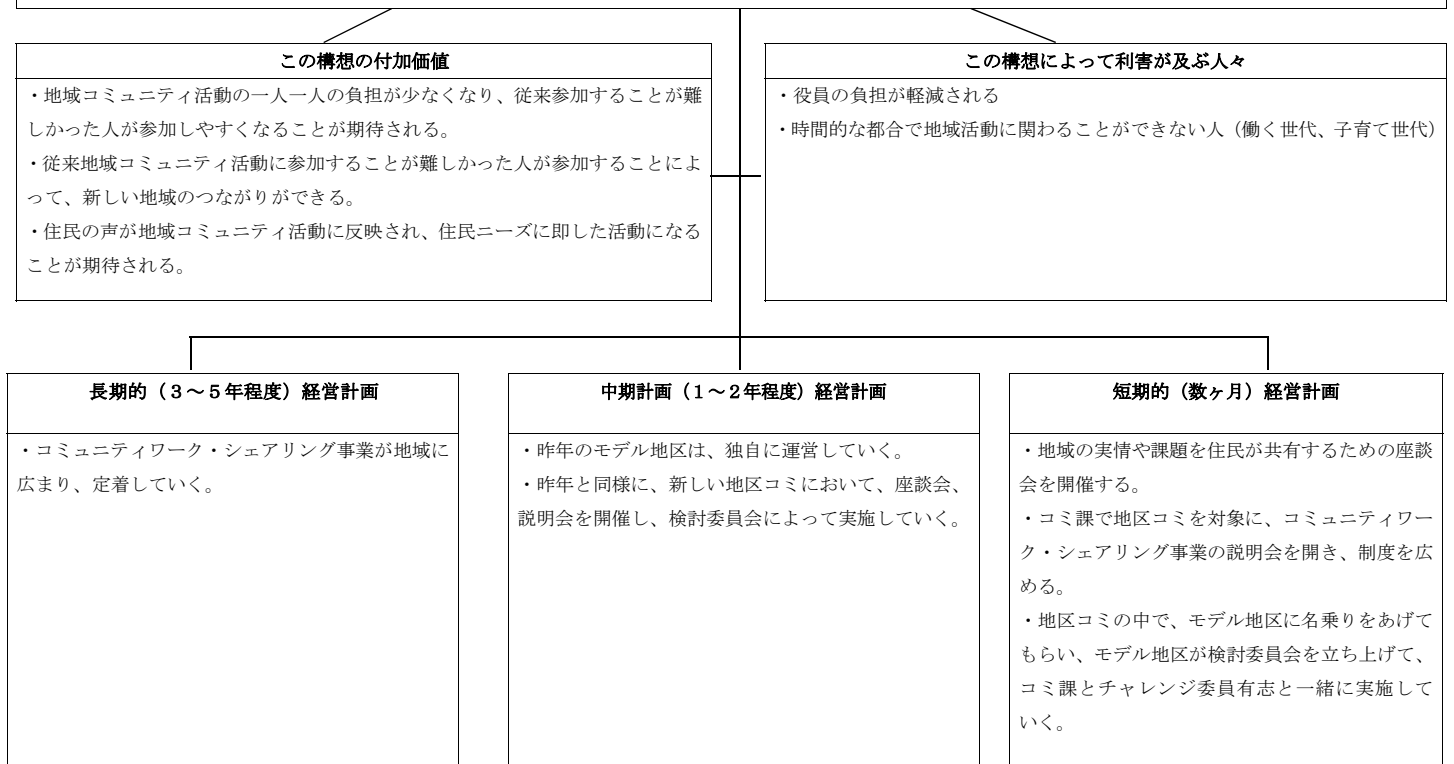
私たちは重点課題として抽出した「固定観念をみなおし、地域の新たなつながりや新しい担い手を創出するしくみづくり」の方策として「コミュニティワーク・シェアリング」事業を考えた。従来地域コミュニティ活動は役職によって組織されているので、仕事が役員に集中し、役員になった住民の負担が大きくなる傾向にあった。この慣行を見直し、地域コミュニティ活動を職務やイベントごとに分担することで、役職の負担が軽減され、時間的な都合で関わることができなかった働く年代層や子育て世代も、地域コミュニティ活動に参加しやすくなると考えた。

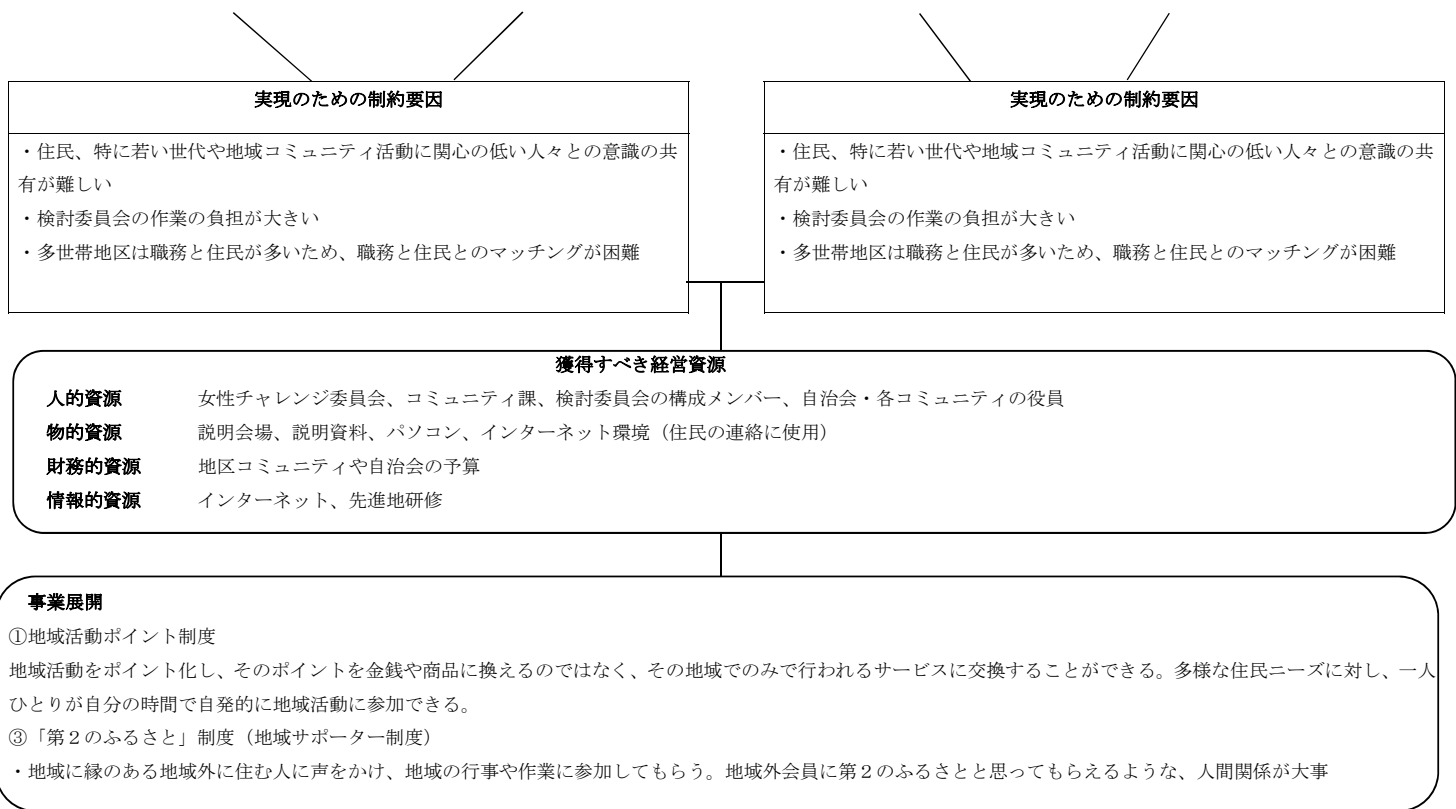
たとえば

- ・会長、副会長、部長といった役員が現に行っている仕事内容、会への出席や書類作成諸作業の負担を洗い出し、それをメンバーで分担する。一つの役職を複数名が受け持つことになるため、「責任がとれない」と敬遠されがちな会長などの役職に就くことが可能になる
- ・行事ごとに担当者や係を募り、作業日や作業内容を事前に把握して分担するので、住民が自分のスケジュールに合わせて引き受けられる
- ・通常1年の役職の任期を短くし、役職を引き受けやすくする

などが予想される。

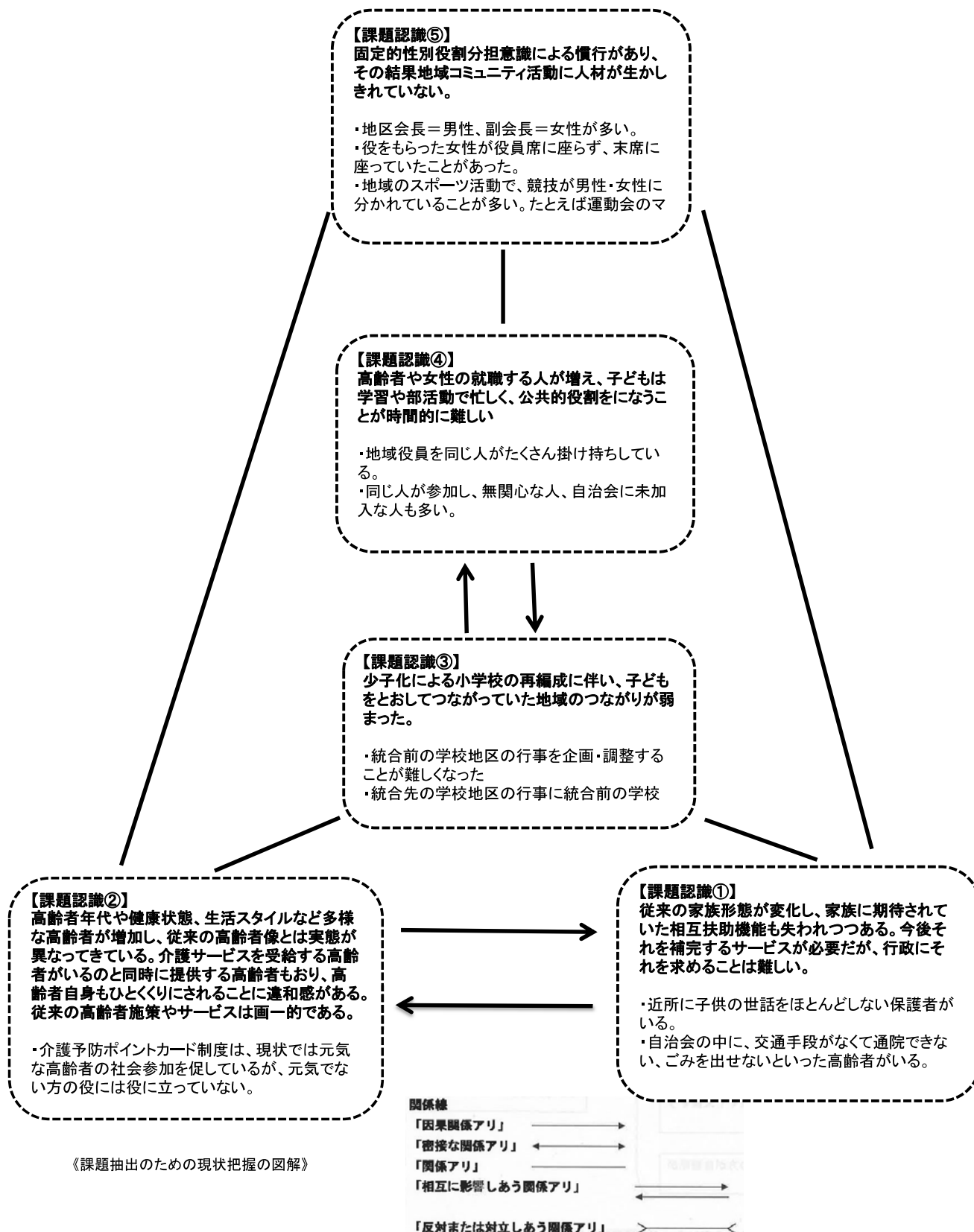
またより多くの住民が地域コミュニティ活動を担うことで、地域の実情が理解されると同時に、地域コミュニティ活動に様々な意見が反映され、地域の活性化や新しいつながりが生まれることが期待される。





【テーマ】

地域づくりの固定観念をみなおし、現代に合った、より魅力的な地域のありかたを考える



《課題抽出のための現状把握の図解》